

# 2018年度（第15期）事業報告

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

報告者 プロジェクト統括責任者 三浦 照男

## はじめに

本会が発足した2004年から2017年までは助成団体より資金供与があり、安定した運営が成されてきたが、2018年度は外部資金が途絶えた。しかしながら、経済的に自立できるように努力し、大過なく計画に沿って事業を果たした。多くの支援者、協力者に感謝を申し上げたい。

## I. 特定非営利活動に係る事業

### 1. 農村開発・農業開発支援事業

#### 1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- アラハバード有機農業組合（AOAC）をカウンターパートとし、有機野菜、日本米の栽培、加工食品（味噌、醤油、食肉加工品、乾燥キノコ、乾燥モリンガ等）の質の向上とインド国内の販路拡大の協力支援を行い、日本米、味噌、醤油の販売量が3割以上増えた。
- 農村女性によるNGOアーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）の自立のため、モリンガ葉の加工・販売、及びGreen Café運営支援を行った。
- 農村女性による生産グループのアーシャ ビカス シャクティ（AVS）が製作する手工芸品のデザイン指導及び販売支援を行い、日本及びインド国内の販売量は増加した。

#### 1-2 アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

プラヤグラージ県（旧アラハバード県）の農村4ヵ所に設立されたアーシャ農村学校、ジャスラ郡のマエダフィールド事務所において有機農業の普及、農村住民リーダー育成、子どもの教育、農村女性の技術訓練を実施するための協力助言を行った。

### 2. 人材育成支援事業

#### 2-1 持続可能な農業・農村開発コース（SCSAD）運営支援および研修所の環境向上

インド・メガラヤ州の男子1名、女子1名、ミャンマー人男子2名、日本人女子1名が9か月の農村開発研修を修了した。また、短期のキノコ栽培セミナー等を3回開催した。

#### 2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

農村に設立されたアーシャ学校3校において小学校4、5年生向けに保健教育、環境教育、農業教育、美術教育を行う宿泊学習を開催した。また、絵画教室、総合学力試験、運動会も実施した。

#### 2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

2017年度の手工芸品研修修了者3名が加わり、年間を通して縫製作業にあたる体制ができた。日本人専門家が約1か月滞在してデザイン及び縫製の指導を行った。新商品の開発、デリーやバンガロールの小売店への営業も行った。

#### 2-4. 農村保健衛生改善支援事業

2017年度に終了した JICA 保健栄養事業に参加した農村保健ボランティア (VHV) による自主的な村人の健康支援活動を支援した。また、日本の大学生グループから貧血予防のために寄付された南部鉄なすび 700 個を農村女性に配布した。

### 3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

#### 3-1. ワークキャンプ・スタディツアー開催、訪問者受入

インターンシップ研修 (9月2日~16日) を開催し、日本人大学生 11 名が参加した。農村開発、農業、食品加工、農産物販売等の研修を実施した。初の試みであったが反応は良かった。

#### 3-2. 会報の発行

アーシャの事業概況及びマキノスクールのプロジェクト活動を紹介する会報を年 3 回 (8 月、11 月、3 月)、発行し、会員及び支援者に理解を深めていただいた。

#### 3-3. ホームページ等での広報

アーシャの活動内容を広く一般の方々に知っていただくためにホームページの更新を行った。

#### 3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

代表理事、副代表理事が講師、報告者となり、大学等で講演、報告会を合計 13 回実施した。

#### 3-5. 次期事業形成調査

- 外務省日本 NGO 連携無償資金協力の NGO パートナリシップ事業への申請の準備を行った。
- インド・マニプール州の開発団体と今後の協力関係について話し合いを行った。

### 4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

災害や紛争など発生しなかったため、行われなかった。

## II. その他の事業

### 1. バザー・チャリティ・販売事業

日本では、栃木県内のバザー等に出店して農村女性が作った手工芸品等の販売を行うとともに、当会の理事や会員の支援に得て大学の学園祭などでも販売を行っていただいた。また、栄養価の高さが注目されているモリンガ葉の効能を広く紹介し、会員へ粉末を配布した。

インドでは、AOAC、AVSS による日本米、加工食費 (味噌、醤油など)、モリンガ葉の粉末や手工芸品の販売を支援した。また、SNS を利用した商品紹介、注文販売を充実させた。

### 2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

栃木県と山形県においてアーシャ学校の生徒の絵画やアーシャの活動風景の写真の展示会を行った。

### Ⅲ. 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民30万人	1,214
2.人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	研修生5名および研修生の活動地(インド、ミャンマー、日本)の農村住民各1,000人	1,968
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	2名	農村児童550人	578
	③裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	2名	農村女性1,000人	225
	④農村保健衛生・健康栄養改善支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	4名	農村住民60万人	617
3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業	①インターンシップ研修及びワークショップ・研修ツアー・訪問者受入	随時	日本	7名	日本300人	480
	②会報の発行・広報・セミナー	年3回	日本、インド、米国	7名	日本、インド、米国延べ1000人	130
	③次期事業形成調査	随時	日本、インド	2名	日本、インド	338
4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0
						5,550

#### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	事業費の金額(千円)
1.バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	随時	日本、インド	7名	460
2.演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展実施	随時	日本	3名	2